HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	直示と参照に基づく日本語表現「ところ」と「ばかり」の意味解釈
Author(s)	山下, 好孝
Citation	国際広報メディア・観光学ジャーナル, 29, 121-130
Issue Date	2019-10-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/75956
Type	departmental bulletin paper
File Information	121-130-08_Yamashita.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Jimcts

直示と参照に基づく日本語表現「ところ」と「ばかり」の意味解釈

高等教育推進機構　国際教育研究部
山下　好孝

Semantic Analysis of Japanese Expressions TOKORO and BAKARI from Deictic and Contextual Points of View

YAMASHITA Yoshitaka

abstract

Previous research on the difference between -ta TOKORO and -ta BAKARI in Japanese has indicated the following points.

1) BAKARI is a kind of suffix and TOKORO is a pseudo noun.

2) BAKARI can be combined with the -te form, -ta form and -ru form of verbs respectively with different meanings. On the other hand, TOKORO can be combined with the -teiru form, -ta form and ru-form of verbs and the noun itself means the same thing: a stage of one process.

3) -ta BAKARI has a connotation that only a small amount of time has passed since the action was completed, whereas -ta TOKORO expresses the final stage of an action.

In this article we analyzed the difference between -ta BAKARI and -ta TOKORO from deictic and contextual points of view. The meaning of a small amount of time which BAKARI expressions carry comes from the emotional feeling of the speaker. So this expression is "deictic". On the other hand -ta TOKORO expresses the final stage of an of action which functions as a reference point of utterance. So -ta TOKORO is a contextual expression with a reference point.

1 はじめに

日本語の表現の特徴として、動作主を明示しないで、事態を叙述するということがある。有名な川端康成の『雪国』の冒頭の部分がそれを如実に表している。

1）国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

この有名な小説の冒頭の部分は主人公の目を通して、事態を描写している。この事態の捉え方は次のような日本語の表現とも共通する。

2）（苦労してワインの栓を抜いた場面で）
a. ふう、やっと開いた。
b. ＃ふう、（わたしは）やっと開けた。
3）（お茶を準備した場面で）
a. みなさん、お茶が入りましたよ。
b. ＃みなさん、（わたしは）お茶を入れましたよ。

「＃」の記号は、文が非文法的ということではないが、文脈のなかで不適当であることを示す。

2)a、3)aの文では動作主である主語を明示しないで、起こった事態を話者の視点から描写している。近藤（2018）はこれらを「主観的把握」と名付け次のように説明している。

4）話者は問題の事態の中に自らの身を置き、その事態の当事者として体験的に事態把握をする―実際には問題の事態の中に身を置いていない場合であっても、話者はその事態に臨場する当事者であるかのように体験的に事態把握をする。

そして話し手の〈見え〉の概念を援用し日本語母語話者の事態把握を説明している。つまり、話し手が事態を認識する〈見え〉の中には、話し手が含まれない傾向があることを論じているのである。たとえば、電車の中で寝込んでしまって、終着駅で目が覚めたとする。あたりを見回して発する言葉としては、日本語母語話者なら次のようになるであろう。

5）あ、誰もいない。　近藤（2018：43）

これは「主観的」把握で、発話時の「イマ、ココ」に身を置き、自身が感覚的・知覚的に捉えた〈見え〉を言語化したのだと近藤（2018）は説明している。

山下 好孝 YAMASHITA Yoshitaka

それに対し、次のようにつぶやいたとしよう。

6）あ、わたししかいない。　近藤（2018：43）

これは、「わたし」の分身を見る客観的表現で、近藤（2018）は日本語としては自然さに欠けると述べている。

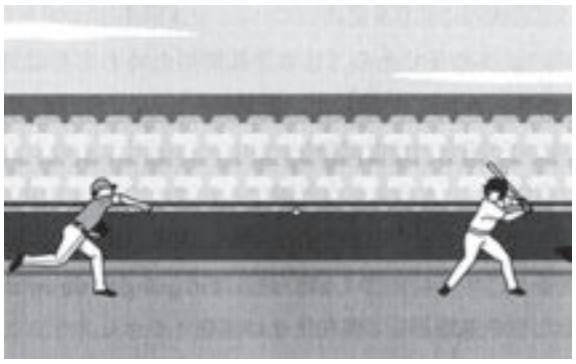
荒川（2016）でも同様の主張が見られ、日本語における世界認識として次のようなイラストを掲載している。以下のイラストでは野球のピッチャーが「話者」であると想定する。第一球を打者に対して投げた場合の世界認識である。

7）荒川（2016）による日本語の世界認識



一方、英語などの場合は、話者を主語とした表現をとり、それを次のようなイラストで表現している。

8）荒川（2016）による英語の世界認識



英語などの言語では、話し手である主語も含めて客観的に世界を認識しており、それが英語の表現の仕方にも表れているのだと荒川（2016）は主張している。

ここで注目すべきは日本語における、「イマ、ココ」という近藤（2018）があげた特性である。これは、山下（2016a）（2016b）（2017）等で述べてきた「直示」という概念と共通する。話者が「イマ、ココ」から発する発話は直示的な発話である。それに対し、何らかの参照点（reference point）を経由

して発話された場合を、「参照的」な発話とした。

参照点になるものは「(向かって) ～の右、左」の表現に生起する基準点であったり、「～だけ」表現に見られる、前提としての集合の全体であったりする。上記の6)や8)の発話は、場面全体をフレームとして参照点とし、その中にいる「自分」を表現した参照表現であると見なすこともできる。

本研究ノートではこの「直示」と「参照」という観点から、日本語の類義表現である「～たところだ」と「～たばかりだ」という表現の違いを捉え直すことを目的とする。

9) 私は今、日本に着いた ばかり だ。
10) 私は今、日本に着いた ところ だ。

「～たばかりだ」と「～たところだ」は置き換え可能な場合が多い。本稿は、これらの文の持つ意味の違いを、事態を直示表現として「主観的」に把握しているのか、それとも何らかの要素を「参照点」として述べているのかという観点で、以下の節で考察していく。

2 ばかり

奥津他 (1986) によると、「ばかり」の語源は動詞「はかる」から来ている。「測る、計る、量る」という意味があり、そこから程度に関するさまざまな用法が生まれたとしている。

11) 胸がはりさけるばかりに悲しい。 奥津他 (1986：68)

この程度を示す「ばかり」が、最小限の程度を表すようになったのが、以下の例文にみられる用法である。

12) お前が来たばかりに、せっかくの苦心も水の泡だ。 奥津他 (1986：99)

「ばかり」は一種の取り立て助詞として、さまざまな組み合わせで用いられる。まず名詞に後接する場合から見てみる。

13) 彼は仕事を全然しない。いつもビールばかり飲んでいる。

寺村 (1991) などでは、名詞に後接する「ばかり」は「だけ」との意味の共通性が指摘されている。「唯一、それだけ」という意味である。また数量の名詞に後接する場合は、「おおよそ」という意味を表すが、「少ない」というニュアンスも含まれるとする。

山下 好孝 YAMASHITA Yoshitaka

14）一万円ばかり貸してくれ。　寺村（1991：179）

また、大関（2016）では「名詞＋ばかり」の「ばかり」が動詞句に係る場合を考察している。

15）a. 弟はいつもコンピューターゲームばかりしている。
　　b. 弟はいつもコンピューターゲームをしてばかりいる。大関（2016：1）

15)a、bの二文は同義であるが、以下の例ではそうではないと主張している。以下の例文に付された「?」の記号は、不自然な文であることを示す。

16）a. ？子供ばかりしかっているけど、少しは褒めてあげたほうがいいよ。
　　b.　 子供をしかってばかりいるけど、少しは褒めてあげたほうがいいよ。
大関（2016：1）

大関（2016）はこれらの例における「ばかり」は「頻度が多い」ことを表すとしているが、本稿では「唯一、それだけ」という意味で使っているものとする。上記の文における文法性の差は、「ばかり」がどこまで係るかというスコープの問題に帰結する。

上記の15)、16)の例では、「〜て＋ばかり」という組み合わせをみたが、いわゆる辞書形にも「ばかり」は後接する。

17）もう料理を作りました。飲み物も準備しました。
　　後は、パーティーを始める　ばかりです。
18）こんなことをしていても、時間がたつばかりだ。　寺村（1991：175）
19）袖口は手の甲を掩いかくして、わずかに指先が出ているばかりだった。
寺村（1991：178）

そしてこれらの文に現れる「ばかり」の意味は、表現されている事態以外の事態は起こらないという〈排他〉であると寺村（1991）では主張されている。

さらに動詞の「タ形」に後接する場合は〈時間量の僅かさ〉であるとしている。

20）いまホテルに着いたばかりです。　寺村（1991：180）

そして、暗に〈まだ着いて僅かしか時間が経っていない（から、…するのはむりだ)〉という意味が込められていると寺村（1991）では主張されている。

さらに文語の否定助動詞の連体形「ヌ」がついた形に、「ばかり」が後接する場合もある。

21）今にも離陸せんばかりになっている。　寺村（1991：180）

この構文の意味は〈まだ実現していないが、いつそうなっても不思議ではない状態ある〉ことを表すと、寺村（1991）は説明している。

以上のように様々な「ばかり」の用法を通じて、「〜のみ、だけ」であるという〈排他〉の意味と、〈時間量の僅かさ〉という意味が抽出される。これは次節で扱う「ところ」にはない意味素性である。

3 ところ

「ところ」は場所の意味で使われる場合は名詞として、時間の意味で使われる場合は形式名詞化していると考えられる。

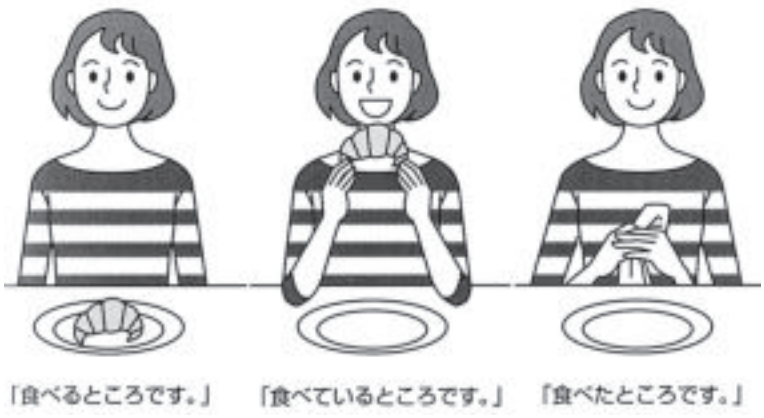
22）ここは私の住んでいるところだ。　（場所の意味）
23）a. 朝ご飯を食べるところだ。
　　b. 朝ご飯を食べているところだ。
　　c. 朝ご飯を食べたところだ。　（時間の意味）

以下の例では、場所的な意味でも時間的な意味でも解釈可能である。

24）我々が朝ご飯を食べたところに、彼がやってきた。

高嶋・関（2018）では時間の「ところ」を「動作の直前、最中、直後」を表すとし、特に「朝ご飯を食べたところだ」を「食べ終わった直後」という客観的な意味を表すとしている。そして、以下のようなイラストで違いを描写している。

25）「〜る・ている・た　ところ」



高嶋・関（2018：101）

前田（2001）では、「～たところ」は、明らかに過去の時間を表す副詞句とは共起しないと述べている。

26）＊二時間前に終わったところです。　　前田（2001：30）

「＊」の記号は、この文が非文法的であることを示す。

しかしながら、局面の推移を暗示する文脈の中に置かれた場合、過去の時間を表す副詞句とも共起することもありうる。

27）残念ですが、ドリカムの今年のコンサートツアーの最終公演は二週間前に終わったところです。来年のツアースケジュールは未定です。

結局、「ところ」表現はある事態がどの局面にあるかを客観的に表す表現であると言えよう。この点「時間量の僅かさ」を主観的に常に暗示する「ばかり」との違いがあると言える。

4　～たばかり、～たところ

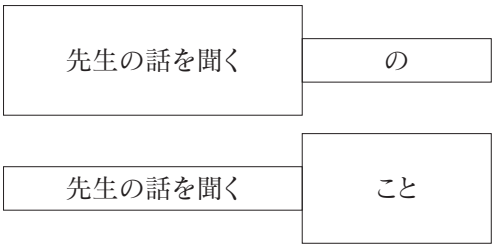
二つの時間表現に関し、今までの節で述べてきたことをまとめると次のようになる。

① 「ばかり」は接辞であり、「ところ」は形式名詞であること
② 「ばかり」は動詞の「～て・～る・～た」に後接するし、それぞれ違う意味を表すが、「ところ」は動詞の「～る・～ている・～た」を述語をとする文で修飾され、基本的に「その時点」を共通に表すこと
③ 「ばかり」は時間量の僅かさを主観的に表し、「ところ」は事態の推移がどの段階にあるかを客観的にあわらすこと

類語表現を比較するとき、その文法的な性質を考察することは重要である。「ばかり」が接辞であり、「ところ」が形式名詞であることは、「の」と「こと」の比較と平行の関係にある。

山下（2006）では、「の」は唯一の事態を含意し、「こと」は様々な事態が前提としてあり、そのうちの一つの事態を選択し連体修飾の形で表現したものであると主張した。

28)「の」と「こと」



山下（2006：137）

上の最初の図は「の」が接辞として「先生の話を聞く」に後接し、名詞化していることを表す。その下の図は「先生の話を聞く」が連体修飾説として、形式名詞「こと」を修飾していることを示す。そのため、「こと」表現は他の名詞修飾節の存在を含意し、それらの中から一つの修飾節が選ばれたことを表現している。その意味で「ところ」表現と共通する。

29）私は今、日本に着いたばかりだ。
30）私は今、日本に着いたたところだ。

29）と30）を比べると、形式名詞「ところ」を使った文は、「着く／着こうとしている／着いた」場面が前提としてあり、その中から「着いた」場面を選択し表現していると解釈できる。

31）―今、どこ？
　　―駅に着いたところ（＊ばかり）。

つまり、形式名詞「ところ」を用いた文は、連体修飾節の部分に「ある事態のプロセスの段階を含意し、その一つを選択し客観的に表示していると考えられる。プロセスの全体を前提とし、それを参照している参照表現（contextual expression）であるとも言える。

一方「ばかり」は高嶋・関（2018）で次のように説明されている。

32）「～ばかり」は「朝ご飯を食べたばかりです。」のように使える動詞は「た形」だけです。この文も朝ご飯を食べたあとの状態なのですが「あまり時間が経っていない」という話し手の主観的な気持ちも含まれています。

高嶋・関（2018：101）

そして寺村（1991）でも述べられているように「～たばかり」は後続する文の理由にもなる場合が多い。

33）1週間前に来日したばかりです。まだ日本語は出来ません。

「ばかり」の表す時間量の僅かさは主観的な、すなわち話者の発話時の気持

ちに左右されるため、かなり幅がある。

34）昨日買ったばかりの携帯電話がもう壊れてしまった。
35）この家は5年前に新築したばかりだが、もう雨漏りしている。

これは、山下（2016b）で扱った「〜しか〜ない」表現と類似している。

36）（財布の中をのぞき込み）
A：あ、2万円しかない。（＊あ、2万円だけある。）
B：えっ！　2万円もあるの！

この会話ではAにとって「僅かな金額」である金額がBにとっては「大金」であると捉えられている。さらに、36）のAの発話を「〜だけ」表現で置き換えることはできない。「〜だけ」表現はある量の全体集合を前提としているからである。

37）a. 昨日の野球の試合、選手は6人しか来なかった。
b. 昨日の野球の試合、選手は6人だけ来た。

山下（2016b）では「〜しか〜ない」は話者の主観的発話である直示表現（deictic expression）であり、「〜だけ」は前提となる全体集合を参照点（reference point）とする参照表現とした。同様の対応が、ある事態が終わって時間があまり経っていないと主観的に表現する「〜たところ」と、事態の各局面を前提として最終局面であることを表現する「〜たばかり」にも認められるのである。

5 終わりに

本稿は類似表現である「〜たばかり」と「〜たところ」を直示と参照という事態の把握の違いに基づき分析した。直示表現と参照表現は完全に対立するものではなく、混用される場合もある。

38）ちょうどその朝は大雪の降ったばかりのところであった。
前田（2001：39）

山下（2016b）で扱った「〜しか〜ない」と「だけ」に関しても、混用が認められる。

39）10万円のパソコンを買おうと思ったが、財布には2万円だけしかなかった。

また接辞である「ばかり」と形式名詞である「ところ」の違いについても考察した。接辞を使った表現と、形式名詞の表現の類語表現には、様態を表す接辞の「そう」と伝聞を表す「らしい」「そう」「よう」がある。

40）このケーキは美味しそうです。
41）この店のケーキは美味しい　らしい／そう／よう　です。

接辞を使った表現が直示的であるとすると、近藤（2018）が説明した「イマ、ココ」という特徴と大いに関連が認められる。伝聞の表現は、他者の発話を前提とするなら、それを参照点とする参照表現であるとも考えられる。今後の研究の課題としたい。

参考文献

荒川洋平（2016）『日本語教育のスタートライン』、スリーエーネットワーク
奥津敬一郎・沼田善子・杉本武（1986）『いわゆる日本語助詞の研究』、凡人社
近藤安月子（2018）『「日本語らしさ」の文法』、研究社
高嶋幸太・関かおる編（2018）『日本語文法を教えるためのポイント30』、大修館書店
寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味　第Ⅲ巻』、くろしお出版
前田直子（2001）「「～したところだ」と「したばかりだ」」『東京大学、留学生センター紀要　第11号』、pp29-44
山下好孝（2006）「「の」と「こと」をめぐって：音声学的分析からの考察」、『北海道大学留学生センター紀要　10』pp135-147
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/45666
山下好孝（2016a）「直示と参照に基づく日本語指示詞の再検討」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』23巻、pp51-62
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/62975
山下好孝（2016b）「直示と参照に基づく「だけ」と「しか～ない」の意味解釈」『北海道大学国際教育研究センター紀要』20巻、pp93-102
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/65698
山下好孝（2017）「直示と参照に基づく「前（まえ）」と「後（あと）」の意味分析」、『国際広報メディア・観光学ジャーナル』26巻、pp141-152
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/68748

（2019年4月12日受理、2019年7月23日採択）

山下　好孝
YAMASHITA Yoshitaka